

〈要約〉

わが国の都市圏鉄道における列車種別に関する現状と課題

A Study on the Train Service Type in Japan Urban Area

藤 井 大 輔
Daisuke Fujii

訪日外国人旅行者を含め、都市圏鉄道利用を「ふだん使いしていない」日本人の出張用務者や観光旅行者などが都市圏鉄道を利用しようとするとき、目の前に停車している列車が自身の下車駅に停車する列車なのか否かを利用者が最終的に判定する際、最も重視するのがホーム上の発車案内や車外側面の行先表示や列車種別表示である。この重要性はスマートフォンの路線検索アプリが普及しても変わらない。

そこで、本論では都市圏鉄道における列車種別について、訪日外国人旅行者向けの多言語表記対応などを踏まえて、どのようになっているのかを整理する。

その結果、都市圏鉄道では、おおむね5種別程度の列車種別があることが明らかとなった。訪日外国人旅行者を含め「ふだん使いしていない」路線を利用する都市圏鉄道利用者には、シンプルでわかりやすい列車種別が望ましく、その意味においては、鉄道事業者をまたいで「共通化」「標準化」された列車種別が望ましい。しかし、大手民鉄など都市圏鉄道事業者にとっては、グループとして沿線開発を進め不動産価値の向上を図り定住人口の流入・増加を企図することから、通勤・通学需要により応えた輸送体系で限られた輸送力を確保、提供する必要性こそが、都市圏鉄道事業者の経営戦略の大きな柱となっている。すなわち、複数の列車種別を設定した輸送体系を提供することが都市圏鉄道事業経営の根幹にもなっている。

それでも、多くの都市圏鉄道事業者が速達性の高い列車種別を「急行」としているように、速達性の高低や停車駅の多寡によって、列車種別の傾向を共通化、標準化することは可能であろう。

キーワード： 都市圏鉄道 列車種別 共通化 標準化 大手民鉄